様式1 令和元年度　山梨県立ろう学校評価実施計画書（自己評価・学校関係者評価）

学校目標・経営方針	一人ひとりの子どもに応じた適切な教育と支援により、個人が自立し、他と協働しながら、豊かな人生を送るために必要な生きる力を養う。

山梨県立ろう学校校長　岩崎　雄治

本年度の重点目標	
	1. あらゆる教育活動の場に発達段階に応じたコミュニケーション活動を位置づけ，豊かな人間性を育み，言語力・コミュニケーション力の向上を図る。
	2. 聴覚障害による学習上の困難を改善し，わかりやすい授業を実践することにより基礎学力の向上を図る。
	3. 心の教育・キャリア教育を充実し，社会的自立に必要な基礎となる能力や態度を育成する。
	4. 聴覚障害教育のセンター的機能を全校体制で推進する。

達成度		
	A	ほぼ達成できた。（8割以上）
	B	概ね達成できた。（6割以上）
	C	不十分である。（4割以上）
	D	達成できなかった。（4割以下）

評価	
4	良くできている。
3	できている。
2	あまりできていない。
1	できていない。

自　己　評　価

本年度の重点目標				年度末評価（2月14日現在）			学校関係者評価（実施日　（2020年2月19日））	
番号	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	自己評価結果	達成度	成果と次年度への課題・改善策	評価	意見・要望等
1	・個々の実態に応じた多様なコミュニケーション手段を活用する。 ・状況に応じてコミュニケーション手段を選択できる力を育成する。 ・あらゆるコミュニケーション場面で日本語の習得及び日本語としての概念の形成を図る。	・聴能研修や手話・発音研修など聴覚障害に関する研修会を実施する。 ・補聴器・集団補聴システムを有効に活用する。	研修の実施状況 聴覚管理の状況 聴能機器の使用状況	1、ろう学校の実態に合わせた基礎研修をはじめ、専門性を高める研修をおこなった。 2、コミュニケーション手段として自立活動や交流学習等を通して幼児生が意見を出し合い、意識を向上させることができた。 3、幼児生の実態に応じて、さまざまな学校行事や授業の中で、個々の合理的配慮を踏まえた言語指導をおこなうことができた。	A	1、今後も職員の指導力向上を目指し、外部講師等も招聘しながら研修会を実施していく。 2、さらに幼児生のコミュニケーション力を向上させるような学習、行事等の検討を学部や学校全体でおこない、改善していく。 3、よりよい言語指導をおこなえるよう、教員相互の授業参観や研究会を充実させていく。	4	・教職員一丸となって学校目標、経営方針に沿って努力されており良いと思う。 ・研修等を通した教師力の向上、子供たちの言語活動の一層の充実に努め、幼児生の言語力・コミュニケーション能力は確実に向上していると思う。今後は、卒業後等でどの程度生かされるかが課題である。 ・肯定されて育った子供たちは、豊かな人間性を身に着け、言語力やコミュニケーション力も育っていく。 日々のやり取りの中で子供たちの言語に寄り添いながら安心して発言できるよう、傾聴をお願いしたい。
		・集団活動の中で，積極的にコミュニケーションを図るための工夫をする。	交流及び共同学習，部活動，行事等の実施状況					
		・日常生活や各教科・領域等のあらゆる場面で，個に応じた言語指導をする。	各教科・領域，行事等の工夫，公開授業（一人一授業の実施），各種検査の状況，図書の活用状況					
2	・子どもが思考するために必要な言葉を身につけさせる。 ・子どもの思考の流れに沿った授業展開をする。 ・発達段階に合ったルーティンワークを設定し継続できるようにする。	・授業では幼児生に確実に伝え，伝わったかどうかを確認しながら進める。 ・幼児生相互の話し合いの場を意識的に作る。	理解させるために有効なコミュニケーション手段の工夫 復唱や言葉による確認	1、「見る、聞く、読む、書く、発表する、対話する」機会を増やし、幼児生が最後まで相手の話を聞く態度を養うことができた。 2、各学部や係分掌での研究会を通じて、よりよい授業や指導方法の工夫をおこなった。 3、デイリーノートへの記入、日記や作文を書くこと等の指導を通じて、自己を振り返りながら、児童生徒が自己の学習を見直す機会を作り、学習態度の育成を図ることができた。	A	1、引き続き、授業づくりや指導力向上のために教員一人一人が研鑽を積み重ね、よりよい指導を目指していく。 2、指導案の見直しや、発問・板書計画・ノート指導の検討をおこない、改善していく。 3、日記や作文、小テスト、課題等を改善・充実させていき、学習習慣の確立を図る。	4	・少人数の利点を生かし、先生方がその子にあった学習内容や指導を工夫して授業されていて良いと思う。 ・各学部での授業改善を通して、言語力・教科の基礎学力も身についてきている。思考力・表現力という点について、「子供が思考するために必要な言葉」の習得がどの程度できたのか、「子供の思考に沿った授業展開」にどのように取り組んだのかについて、取り組む必要がある。 ・「見る子供達」は、言葉の奥にある意味をイメージすることが難しいため、その時々の子供の思考や感情を「見る言葉（書き言葉・身振り・表情等）」にして共有してほしい。
		・本時の目標とまとめを明確にする。 ・幼児生の発言や活動を生かして本時のまとめをする。 ・整理された板書を作る。	発問・板書計画，ノート作り，プリント，ワークシート					
		・学習習慣を身につけさせる。	ルーティンワーク，朝学習，朝読書，家庭学習，小テスト					
3	・自己認識・障害認識を深める。 ・社会性・自主性を深める。 ・自己有用感を高める。	・自立活動の中で，自己認識に関する内容を工夫し多く扱う。	自立活動（聴能・自己理解分野）	1、幼児生の実態や課題を学部で共通確認し、指導に当たった。自立活動等を通して、社会性や自主性を身に付けさせることができた。 2、学校行事や特別活動を通して、幼児生の自己有用感、他者の意見を聞く等の態度を育成することができた。 3、職場体験や、社会科見学等を通して、働くことの意味を理解したり、将来に向けて進路学習を深めることができた。	A	1、今後も主体的・対話的な深い学びの場の設定に努め、幼児生の実態に合わせながら、活動内容を精選し、柔軟に対応できるようにする。 2、他者の意見や考えを提示し、幼児生に考える機会を持たせる等、自己認識や課題意識を持たせるような工夫をおこなう。 3、他機関との連携を強化し、保護者や幼児生に情報提供をおこなったり、担任とも連携を取りながらキャリアパスポートの活用を図る。	4	・ろう学校自体の在籍数が減少し、集団活動が難しくなる中で、社会性や自己有用感を育てるため、様々な工夫と努力が蓄積され、その結果進学や就職の実績に結びついている。少ないからこそできる個別指導の有用性に着目して、個を伸ばすろう学校という特性を発揮できると思う。 ・障害受容や自己認識・有用感をもてるよう、「聴こえないこと・うまくコミュニケーションがとれないこと」を「負」と捉えないよう支援をお願いしたい。 ・いじめの報告があったので、小学部低学年から心の教育を重点的にされてもよいと思う。
		・特別活動の中で，見通しを持たせ，課題を意識しながら取り組めるようにする。	交流及び共同学習，部活動，児童会・生徒会活動，校外学習					
		・働くことに関する学習を充実させ，自己肯定感・効力感を持たせる。	勤労体験，インターンシップ，現場実習，社会科見学等の取り組み					
4	・全校体制で聴覚障害のある全ての子どもと園保護者及び在籍園，学校等関係機関への支援を適切に行う。	・コーデイネーター会議を中心とし，より充実した支援やコーデイネートのあり方について工夫，改善し，活動の周知と連携の強化を図る。	コーデイネーター会議の活用，専門家との連携・活用，資質向上のための研修及び還流	1、コーディネーター会議や通級情報交換会を通じて、乳幼児・児童生徒の情報を共有し、具体的な支援をおこなうことができた。 2、外部関係機関との連携や情報交換をとりながら、センター的機能を発揮することができた。	A	1、通級による指導連絡会の回数や内容を検討し、実施していく。難聴学級の授業参観についても検討していく。 2、関係機関や、各学部、寄宿舎ともさらに連携を密にして、情報共有や支援を充実させていく。	4	・県下の聴覚障害児者への教育・指導・支援というろう学校の役割は、医教連携などを通して十分に果たされ、また、高く評価されている。ただし、他の障害に関してはセンターとして県の機関があるが、視覚・聴覚に関しては、学校にセンターが置かれ教員が業務に当たるという点が疑問である。 ・情報提供や相談支援により，聴こえる家族は聴こえない子供を受容して向き合っている。聴こえない子供が家族に一員として主体的に協働できるよう支援をお願いしたい。
		・医療・行政・教育・福祉等の外部機関との連携を強化推進する。	外部機関との連携及び諸会議の実施，連携協議会の実施，連絡会の実施，連携ケースの情報共有					